

令和3年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	みんながくらす みんなでくらす を考える ーバリアフリーマップアプリ 〈WheeLog!〉 ×分身ロボット 〈OriHime〉 を使ってー
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・佐藤ゆかり
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 社団法人雁木のまち再生 (担当者職名・氏名) 理事長・関由有子 氏
4 事業の趣旨・目的	<p>本事業は、「みんながくらす みんなでくらす」を考えることを目的としたものである。「みんなでくらす みんながくらす」から想像される語句として「共生のまち」「共生のまちづくり」があり、これらは多くの場合に「バリアフリー」とともに語られる。「バリアフリー」とは、「バリア」を「フリー」にすること、いわゆる「障壁」となるものを「取り除く」ことを意味し、そのことによって、障害等の有無にかかわらず生活しやすくしようとすることを目的とする。</p> <p>例えば、「バリアフリー新法」などに示されるような建物等の物理的な障壁を取り除くことを発端とする考え方ではあるが、現在では、「心のバリアフリー」と言われるような社会的、制度的、心理的な障壁を取り除く際にも使用されている。これらは『上越市第4次 人にやさしいまちづくり推進計画 誰もが安全・安心で快適に暮らせるまち』（平成29年度～平成33年度）版にも示されている。</p> <p>本事業では、「バリアフリー」を考える出発点ともいえる「物理的障壁」を視点とし、「みんながくらす みんなでくらす」ことを考えた。</p>
5 事業活動報告	<p>本事業は次の内容1から内容3により行う予定であったが、コロナ感性状況等の影響により、内容3を行うことができなかった。</p> <p>内容1：上越市の〈バリアフリー〉を考える 7月21日（水）18:00～19:30 場所：上越教育大学 参加者：25名（学外9名、学内16名） 上越市の〈バリアフリー〉を考えるために、一般社団法人 WheeLog の理事 安田恭子氏から、「共に生きるということ」と題してバリアフリーマップアプリ WheeLog! とのかかわり等などをお聞きした。</p> 

内容2：「雁木と町家のまち 高田」のまちあるき
 場所：高田小町を拠点に高田市街のまちあるきをし、バリアフリー調査とバリアフリーマップアプリ WheelLog! への投稿を行った。
 高田のまちのバリアフリー調査の前に雁木と町家の特徴について、社団法人雁木のまち再生の関由有子氏に説明をしていただいた。
 参加者：19名（本学学生7名を含む）
 なお、学外からの参加者には分身ロボット OriHime での参加者2名を含む。





第2回：2月12日（土）10:00～12:00

「雁木と町家のまち 高田」のまちあるき はコロナ感染拡大の影響により実施することができなかった。今後の事業実施にむけて、分身ロボット OriHime を使用したまちあるきを試行するにとどまった。

内容3：中山間地域の〈バリアフリー〉を考える を実施することができなかった。

6 本事業
で得られ
た成果

この事業により参加者が交流することは、各学校及び地域との連携の契機となりうるものと考えられた。また、「共生」をキーワードとしたまちづくりや教育を行うことができる教員養成教育カリキュラム及び現職教員研修プログラム開発のための基礎的知見の獲得に資するものとも考えられる。

この事業での取り組みは先に示したように Web 上のバリアフリーマップに反映されることから、上越市の特色を発信することにつながる。それに加えて事業の様子を SNS 等で発信した。このことも上越市の特色を発信することにつながるものとする。



7 その他
(成果物
等の名
称)